

栽培カレンダー

月旬/ 主な作業	3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		1a当り 植え付け本数
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
播種																			60~70本/1a
定植																			
収穫																			

10a当りの基肥（目安）表です。参考にしてください。

内容	資材名	施肥量	内容	資材名	施肥量
基 肥	堆肥	4,000 kg	追 肥	S 646	60 kg
	粗粒てんろ石灰	200 kg		C D U S555	60 kg
	BMようりん（粒）	40 kg		野菜用A929	60 kg
	おらほの脂粕	135 kg			
	畑のカルシウム	100 kg			
	クリーンタービー	100 kg			
	C D U S555	60 kg			
畑当番	40 kg				

良品質生産に向けて栽培の
ポイントを確認しましょう。

きゅうり

園芸情報

園芸指導販売係
清水 賢一



■圃場の準備

日当たりが良く、排水良好な圃場が適しています。堆肥や油粕など基肥の投入は定植1ヶ月以上前に行い、土壌は空気が土の中で保たれる団粒構造を目指しましょう。根腐れやしおれ等の防止とともに、定植後の速やかな活着、根域の確保につながります。

■定植の準備

露地栽培は定植10日前に畝（3本仕立ての場合）は畝幅120cm・2本仕立て80cmを完成させ、地温の確保をします。低温期に定植する場合は太陽光を透過しやすい透明やグリーンのマルチを使用し、畝の地温を上げて活着を早めます。気温が上がり生育に適した時期には地温上昇と畝の乾燥防止のため黒マルチを使用します。

■苗の状態を確認

苗の大きさは、本葉3〜4枚が理想です。2枚で定植すると親蔓に雌花が付きにくくなり、6枚以上は親蔓に雌花が多く付きますが、子蔓の発生が悪くなります。老化苗の定植は避け、必要に応じて液肥のどぶ漬けや灌注を行い、根量が増えたら定植します。

■定植

地温が15℃以上になる5月下旬が定植適期です。株穴にはアブラムシ類の害虫防除としてアドマイヤー粒剤1〜2gとオリゼメート粒剤5gを混和してから定植します。定植後は草勢維持に必要な

■仕立て方

直根の発生を促すため根元灌水を行います。最近では低段の側枝を伸ばす3本仕立てをする方が増えていきます。この仕立て方は樹勢が安定し軟弱徒長になりにくいほか、果形が安定（秀品率向上）するなどのメリットがあります。

■定植後の管理

活着して生育が始まったら、親蔓の下段に付いている雌花を8節、又は高さ40cmまでに付いている雌花を除去します。下段の子蔓は草勢が強くと放任すると親蔓より伸びてしまうため、子蔓も6節まで早目に除去します。摘葉管理については、老化した葉や過繁茂になっている部分の葉を適宜除去（1株当たり1日1枚程度）するなどして採光性や通気性を確保します。摘葉が不十分だと病害発生リスクが高まるほか収穫果の見逃しにもなります。

■肥培管理

果形の乱れや草勢がなくなってきた場合は既に肥料切れを起こしている可能性が高いため、窒素肥料など灌水チューブを使った液肥灌水を行います。追肥は主枝・側枝の果実を観察して過不足ない追肥を心掛けましょう。

■病害虫対策

雨降りや多湿などの条件下では、べと病や褐斑病などが発生しやすく、高温による乾燥条件下では、うどんこ病やアブラムシ類が発生しやすくなります。特にアブラムシ類はウイルス病を媒介するので発見した場合、薬剤による早期防除を行い、病気で枯れた葉を摘み取りましょう。

